「北前船時代の新たな街並みづくり」への提言

中央区自治協議会
会長　阿部　洋一
水辺とみなとのまち部会
座長　藤田　孝一

はじめに

新潟市が政令指定都市を目指した目標の一つが、市のイメージアップによる交流人口の拡大であり、政令指定都市移行以前から、都市のイメージの明確化や魅力的なまちづくりに向けて市民と行政が一体となって邁進してきました。

現在の新潟のまちの基礎ができたのは江戸時代中期であり、新潟港は明治元年に開港五港の一つとなりました。その後本州日本海側最大の港に発展し、東アジアへの玄関口となり、2019 年には開港 150 周年を迎えます。

昭和 30 年代まで、北前船のゆかりの地である下町や中心市街地の古町界隈には、堀や柳、廻船問屋の家並み、割烹料理屋などが数々あり賑わっていました。しかし、今はその風情や面影は薄れ、人口流出と高齢化が進んでいます。

コンパクトなまちづくりが推奨される中、新潟市においても公共交通による利便性が強化されるとともに、時流にふさわしい新たな“賑わいのあるまちづくり”が求められています。また、都市には新しさや便利さ、刺激、おもしろさなどの魅力がある一方で、歴史や風格も大事な要素であります。下町界隈には現在も所々に当時のまちの構造が残っており、これは貴重な財産です。こうした歴史的遺産を現在そして未来に向けて保全、活用、継承していくことが新潟市のイメージアップや交流人口の拡大による活性化につながります。

提言の背景

①中央区自治協議会「水辺とみなとのまち部会」では、自治協提案事業として平成 25 年 4 月から 2 年間にわたり、「北前船時代の街並みづくりの提言」を目指して、研究や調査活動などを展開してきました。

平成 25 年度は、全国の北前船寄港地の中で 40 自治体へアンケート調査を実施し、併せて無作為抽出した 20 歳以上の中央区民 1000 名を対象にアンケート調査を実施しました。調査の結果、北前船の交流によりもたらされた文化や遺産が、今日、みなと新潟のシンボルとなり地域に根づいていることを改めて認識するとともに、これを保存・活用して今後のまちづくりに発展させていくことに市民の賛同を広く得ました。

また、今年度は昨年度の活動実績を踏まえ、「みなと新潟　北前船フォーラム」を開催しました。フォーラム開催前には、地域で活動するまちづくり団体やコミュニティ協議会の代表の皆さまと「みなと新潟のまちづくり」について意見交換会を実施し、交流を深めたことで当部会の取組みに理解と協力を得ることができました。

そして迎えたフォーラムには２３２名の来場者の下、篠田市長はじめ、そうそうたる

有識者による闊達なディスカッションが展開され、フォーラムは成功裡に終了しました。
　フォーラム参加者から「北前船が新潟の発展に大きく寄与した事例に感服した」などの感想が寄せられました。

② 一方、今年度新潟市では、平成２７年度からの８年間にわたる新たな総合計画「にいがた未来ビジョン」が策定されました。その中では、目指す３つの都市像の一つに「日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市」が掲げられ、環日本海に位置する開港都市として、その拠点性を活かし、創造的な発展をめざす旨、謳われています。

③ また、上記計画に位置づけられている「中央区区ビジョン基本方針」には、中央区の将来像として「歴史と文化の薫りただよう、うるおいとにぎわいのまち」を、そして４つの目指す区のすがたの一つに「未来につなぐ歴史・文化のまち」を掲げています。

④ さらに、「中央区区ビジョン基本方針」の実現に向けた取組みの方向性を示す「中央区区ビジョンまちづくり計画」の策定にあたっては、中央区自治協議会が設置した「区ビジョン特別部会」で審議を重ね、「みなとまち新潟」の歴史・文化の取組みを計画に盛り込みました。

　以上、こうした一連の経緯を踏まえ、新潟島が北前船の寄港により繁栄していた時期の文化や街並みを現代そして未来に活かし、賑わいのまちづくりに資する方策を提言いたします。

「北前船時代の新たな街並みづくり」に向けた提言

1.　３拠点地域の指定

みなと新潟の歴史的特徴が凝縮された以下の３つのゾーンを拠点地域として指定し、それぞれの特徴を活かしながら、“賑わいのあるまちづくり”を進めていく。

①下町・早川堀ゾーン

　新潟に唯一残存する廻船問屋の「北前船の時代館・旧小澤家住宅」を中心拠点とし、下町界隈に残る歴史的な建物の保全・活用を図るとともに、早川堀を通じた「新潟市歴史博物館（みなとぴあ）」一帯の潤い・賑わい創出に向けた環境整備を行う。

【参考】

旧新潟税関庁舎、日和山・住吉神社、湊稲荷神社、開運稲荷神社、金刀比羅神社など

②古町花街・西大畑ゾーン

　開港によってもたらされた西洋文化を象徴する建造物が西大畑町一帯に集中していることから、このハイカラな文化遺産を保全・活用するための環境整備を行う。

　また、花街の文化や街並みの保全・活用を通じて日本の伝統文化を継承するための環境整備を行う。

【参考】

新潟カトリック教会、異人池跡地、どっぺり坂、砂丘館（旧日本銀行新潟支店長役宅）、旧斎藤家別邸、行形亭、鍋茶屋界隈の花街の街並みなど

③万代・沼垂ゾーン

信濃川右岸の万代地域では 1970 年代以降、交通ターミナルの整備を契機に若者をターゲットとする開発が進められ、一方の沼垂地域では古き良き港町の風情や発酵食文化を活かしたまちづくりが進められている。こうした新旧融合の地域ならではの特性を生かし、みなと新潟の賑わいにつながる萬代橋など歴史的建造物や文化財を保全・活用するための環境整備を行う。

【参考】

萬代橋、流作場、沼垂古町通り、蒲原神社、醸造蔵など。

2. 交流・ネットワークの推進

①市民意識の醸成と、まちづくり関連団体のネットワークの推進

3 拠点地域の歴史的街並みづくりを推進するためには、地域住民をはじめ広く市民の関心・機運を醸成するための情報受発信や、まちづくり関係団体の結束を高めることが必要である。そこで、「みなと新潟北前船フォーラム」の開催に際して行った「下町地域まちづくり懇談会」の継続とともに、結束した取組みや活動を展開する。

②北前船の寄港地間との交流

全国の北前船寄港地間との定期的な交流・連携を行い、北前船がもたらした歴史的恩恵・教訓などを、みなと新潟のまちづくり・街並みづくりに活かしていく。

3. 景観維持のルールづくり

新潟市の都市計画において、歴史的建造物の保存規制が確立されていないため、開発に際して歴史的に貴重な建物や街並みが簡単に消失してしまう懸念がある。そこで、歴史的建造物や景観の保全、維持に関するルールづくりを市民と行政が一体となって推進する。

4. 次世代への継承

「新潟市歴史博物館（みなとぴあ）」や「北前船の時代館・旧小澤家住宅」では体験学習を通じて新潟の歴史や文化を学ぶことができる。また、小・中学校では、新潟の歴史・文化を副読書として編纂しているが、必ずしも授業にとり上げられているとは限らない。

したがって、次代を担う子ども達（小中高生）が郷土愛を育むにふさわしい歴史教育を学ぶ場をひろく設ける。

5. 開港 150 周年に向けた取組み

2019 年の新潟港開港 150 周年に向けて、上記取組の成果を結実することができるよう、関係団体・個人との協働により目標を定めて進めていく。

活動の記録・資料

・平成 25 年度・平成 26 年度水辺とみなとのまち部会日誌
・視察（旧新潟税関庁舎～早川掘通）及び学習（北前船の時代館にて旧小澤家住宅館長の講話）報告
・下町地域の代表及びまちづくり団体代表との懇談会報告
・佐渡市宿根木集落の歴史的建造物の見学と佐渡市役所職員との研修報告
・石川北前船フォーラム報告
・北前船寄港地アンケート・中央区民北前船アンケート調査結果報告書
・みなと新潟北前船フォーラム報告書
・中央区自治協議会だより、市報にいがた（区だより）、及びスクラップ
・参考書　新潟歴史双書１～5「新潟湊の繁栄」「新潟歴史物語」ほか
（編集発行：新潟市。印刷：(株)文久堂）

水辺とみなとのまち部会委員名簿

この提言の作成には、下記の委員が携わった。(順不同)

藤田孝一委員、鈴木　喬委員、深井俊輔委員、戸川芳孝委員、阿部洋一委員、
鹿島興二委員、榮森征行委員、大堀隆夫委員、豊嶋直美委員、山口浩二委員、
小島良子委員、川崎健輔委員、大坂昌子委員